

Poco Poco あぽこ

新たな支援サービス 「風鈴山荘」開設

ゆらくの里 支援課課長 中山 寛基

四月一日より、風鈴山荘（グループホーム）を開設致しました。多数の関係各位にご臨席を賜る中で、三月二十九日に竣工式がとり行われました。多くの方々のご協力を頂戴し、無事に開設の日を迎えることができましたことを、この場をお借り致しまして厚くお礼申し上げます。

風鈴山荘では、十四名の方が障がい者支援施設ゆらくの里より転居して頂き、新たな生活をスタートされることとなりました。建物は木目を生かした温かな雰囲気となっており、個室をご用意させて頂きました。また、ゆったりとした食堂や居間などの共有スペースを建物の真ん中に配置し、快適に生活して頂けるように床暖房設備を整えております。

さて、以和貴会の既存施設である「ゆらくの里」は、昭和六十三年五月に開所し、二十七年目に入ろうとしております。現状の生活環境では、次に挙げるような多くの課題が顕在化してきております。

- ① 施設設備の老朽化
- ② 重度・高齢化による介護度の上昇
- ③ 集団生活によるプライバシーの問題
- ④ 重複障害者への支援におけるハード面の整備
- ⑤ 自閉症の方への構造化による支援が不十分

これらの課題に伴い発生する問題を解決していく方策として、まず居住サービスの充実を図ることが必要でした。

風鈴山荘の開設に伴い、ゆらくの里の定員削減が実現できました。ゆらくの里においては、生活場面における混雑の緩和が図れ、居室等における占有面積の拡大、自閉症の方への構造化を用いた個別支援の充実を行うことができました。

一方、風鈴山荘には、自閉症の障害を持ち、行動障害を抱えておられる方を中心に入居して頂きました。自閉症の方々へは、構造化(※1)を図り、生活の見通しを立てやすいように個別支援を構築してまいります。

法人理念の「その人らしく、その人なりの人生を支えたい」が実現できるよう、また「ゆらくの里」「風鈴山荘」双方の事業のご利用者にとってより豊かな生活を送って頂けるように変化を遂げてまいりますので、今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願い致します。

※1 構造化：自閉症の方々に対し、周囲の環境の意味を分かりやすく整理し、

時間や空間を理解してもらう為、ご本人の理解可能な方法で伝える合理的配慮を指す。



風鈴山荘(グループホーム)開設!

4月1日に当法人の念願であるグループホーム「風鈴山荘」が開設しました。

「風鈴山荘」ではゆらくの里より14名の方に転居して頂き、新たな生活をスタートして頂く事となりました。

現在ゆらくの里の生活環境は四人部屋が中心で、一人あたりの専有面積も狭く、対人トラブルが絶えませんでした。また人権尊重の観点からも現状では人権侵害にもなりかねない状況でした。しかし、「風鈴山荘」の開設に伴い、ゆらくの里の利用者定員の削減が可能となり、一人あたりの専有面積も今までより広く使える様になりました。



「風鈴山荘」では山之香(やまのか)と風乃音(かぜのね)の2つの建物に分かれています。各棟それぞれ9つの居室があり、各7名の方の居室として、またそれ以外の居室は短期入所用居室として使用します。

建物は木の温もり溢れる作りとなっており、館内は利用者様が快適に暮らせるよう全面バリアフリーで、共有スペースである食堂・居間には床暖房を完備しています。



共有スペースの居間の様子です。落ち着いた雰囲気のある作りとなっており、窓を開けると、心地よい風が建物内を吹き抜けます。また、春になると居間の窓から美しい桜の木も見る事が出来ます。



食堂で、職員と共に皆様揃って美味しく食事を召し上がっていただいております。

また、開設に先立ち3月29日に香芝市の吉田弘明市長をはじめ多くの来賓・関係者の方々にご臨席いただき、盛大に「風鈴山荘」の竣工式をとり行いました。当日はあいにくの雨模様となりましたが、皆様のおかげで素晴らしい最初の一步を踏み出すことができました。



祝 グループホーム風鈴山荘 竣工



来賓の方々にご挨拶をいただき、施工にあたってご尽力いただいた方々への感謝状贈呈、利用者・職員の紹介のあと、「風鈴山荘」開設のテープカットを行いました。式典後には皆様に建物内を見学していただきました。

吉田弘明香芝市長よりご挨拶を頂きました。

ホーム風鈴山荘 竣工



式典後、皆様に建物内を見学して頂きました。

テープカットには(左より)下村卓司理事長、吉田弘明香芝市長、奈良県健康福祉部障害福祉課課長 有本昌弘様、奥山博康理事にご参加頂きました。



ふうりんさんそう
風鈴山荘

共同生活援助（グループホーム）、短期入所事業

住所：〒639-0261 奈良県香芝市尼寺609-3

電話：0745-77-8788（ゆらくの里）

サービス管理責任者：中山 寛基

定員 共同生活援助：14名

短期入所：4名



法人研究発表会

2月21日

昨年4月から1年間、各グループ（事業）が26年度の研究課題を決め、取り組んできた事を研究発表として報告しました。利用者様のご家族にもご参観いただき、ポノポビル4階にて開催しました。今年からすみれの里も参加し、全8グループでの発表となりました。各グループのテーマは以下の通りです。



- ゆらくの里1G ユマニチュードの視点から観る認知症のケアについて
- ゆらくの里2G 自閉症支援事例報告 主体的な行動を求めて
- ゆらくの里3G 自閉症の人に対する感覚器官への働きかけ
- ゆらくの里日中 「見えない」ものを「見せる」支援
～豊かなコミュニケーションのために～
- 健康サポート ブリストルスケールの有効性について
- 児童課 応用行動分析（ABA）について
- 今人・我楽 自立課題を通じてわかった事
- すみれの甲 「すみれの甲」における自閉症者の活動の組み立て

その中より、最優秀賞に選ばれたゆらくの里日中グループの研究への取り組みを報告します。

～ 『見えない』ものを『視覚化』する支援 ～

日中支援班では、平成23年度に『知的障がいのある触法行為者への支援について』というテーマで研究・発表をさせて頂きました。その中で、知的障がいを持つが故に犯罪を繰り返してしまう累犯障がい者と呼ばれる方々がいること。またその数は年々増加傾向にあり、どの刑務所にもかなりの数の知的障がい者が収容され、出所後の受け入れ先や専門的なケアが必要となっていることを学びました。

そこで全国で3か所しかない矯正施設退所者の受け入れ先の1つである大阪府立砂川厚生福祉センターへ見学を行い、「中軽度の知的障がい者で、概ね青年期の年齢にあり、家庭や地域において生活及び社会的な習慣やルール、対人関係などの習得が困難のために生じる、反社会性や非社会性のある行動が顕著で、地域での対応困難な状態」な方々を対象に「社会関係障がい」と位置付け、アンガー・コントロール・トレーニングプログラム（怒りの感情のコントロール）や窃盗防止プログラム、性学習プログラム、SST（社会生活技能トレーニング）を提供されていることを知りました。そこで私達はSSTを勉強することにしました。

SSTとは？

- ☆『その場にふさわしい自分の考えや感情、用件を、相手に上手に伝えるようになること』
- ☆『相手の考えや感情、働きかけにうまく対応できるようになること』
- ☆『適切な自己主張や上手な関わり方を練習して、対人関係のストレスや不安を軽減すること』

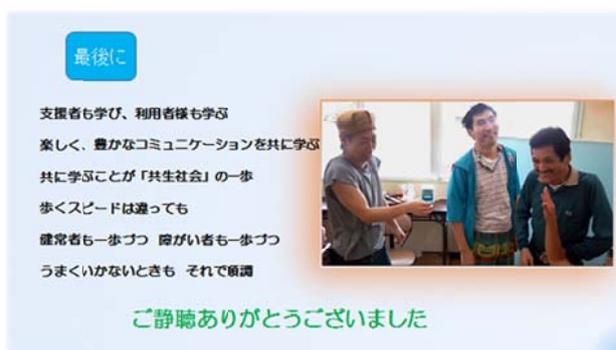
以上3点を目的とし、良いところを見つけだしほめること、わずかな改善でもほめること、否定的なフィードバックをせず、技法としては、不適切もしくは、利用者が悩んでいる行動を具体的な場面として、リーダー、サブリーダーの前で集団で行う方法です。

これらの手法を学ぶために、日中支援班から2名が23年度からSST初任者研修を受講してきました。それらを踏まえ、平成24年度の研究発表では『SST技法を取り入れたストレングス支援とエンパワーメント』と題して、ある程度コミュニケーションを取ることができる軽度利用者を対象にミーティングを重ねました。それまでのゆらくの里では、利用者間のトラブルが発生するとまず職員が間に入り、お互いを個別に説得することが主流でした。それを職員立ち合いの元で、当事者間で話し合うことを勧め、お互いの気持ちや言い分、立場や考え方への共感と理解へと繋げていきました。そして平成25年度『SST技法を取り入れた災害対策支援～自らの判断で危険から身を守る～』では非常時に自分の身を守るのはもちろん、できる人にはお互いで助け合うことの必要性を伝え、そして今年度の『「見えないもの」を「視覚化」する支援』へと繋げてきました。

今回対象になった清掃班のメンバーは、地域での生活を体験したことのある方がほとんどであり、軽度であるが故に他人や社会でのトラブルを経験してきた経緯がありました。施設という閉鎖された空間で共に会話をする相手すらいらない状況の中、彼や彼女らは精神的に満たされない気持ちが強く、唯一の話し相手である職員は業務に追われ忙しく『話を聞いてもらいたい、認めてほしい』という承認欲求に充分に対応又はお応えすることが出来ませんでした。そこで清掃活動をすることで、自分の持っている能力を発揮しながらふさわしい方法で職員から認められ、またその労働により給料を得ることによって自己実現を図ることを目的として作ったグループです。不定期に実施しているミーティングでは、時に白熱した議論になることもありますが、お互いに相談しあって1つのテーマを解決したりしています。

発表では、知的な障がいがあるからこそ理解がしにくい『他人の気持ち』や『他人へのあこがれ』や様々な抽象的な言語表現（葛藤・向上心・優越感・協力・依存など）を、口頭で説明するだけでなく、映像を作成し見てもらう。更には自分達が主役になって映像を作ることにより、興味を引きながらその後のミーティングへと繋げている様子を見て頂きました。どのメンバーも、嬉しそうに照れくさそうにしながらも、見事に演じておられます。

1年や2年の取り組みで、大きな変化は感じられないかもしれませんが、でも根気よく続けていくことで、いつか「昔はあんなにトラブルを起こしていたのに、すっかり落ち着いたね」と職員と利用者がお互いに笑い合える日を夢見て、更なる支援の幅を広げていきたいと思っています。



日中支援活動 清掃班担当 通阪こずえ

今人・我楽 入退所式

4月4日

「今人・我楽・すみれの里」入退所式は、4/4(土)香芝市総合福祉センターにて、開催されました。新規ご利用者が「今人」7名、「我楽」7名、「すみれの里」5名、合計19名、退所者2名（一般企業就職の為）、となりました。

みなさん、正装で参加され緊張感をもって、気持ちが引き締まった様子でした。

ご家族様にもご参加頂き、今年度のスタートとしては良い式典となりました。



バーベキュー大会

4月19日



雨が心配される天候でしたが、開始時には晴れ間も見える天気のもと、ゆるくの里バーベキュー大会が開催されました。

スタッフと御利用者様の為にと、御家族の皆様方が御用意して下さった豪華なお肉や野菜・海産物に舌鼓を打ちながら、普段なかなか味わう事の出来ない食事を、御利用者様だけでなくスタッフも味わうことが出来ました。

お肉や脂っこい食事が苦手など、御利用者様それぞれの理由から普段はお肉を敬遠されている方も、自ら進んで召し上がり楽しんで食事をされている姿を見せて頂いたことは、普段御世話をさせて頂いている私共も、大変嬉しく感じております。

また、スタッフ・御利用者様・御家族様が揃って食事をしながら御話を聞かせて頂ける機会は、バーベキュー大会以外には無く、スタッフ一同貴重な時間と考えております。

御家族の皆様、本当にありがとうございました。

今年度も宜しくお願い致します。



新しい仲間が加わりました！！



はら だ あさ み
原田 麻実
所属 はぐ・らいぶ

4月からHUG・LIVEで勤務をさせて頂いております。笑顔で元気に子ども達と関わり、子ども達が楽しく日々を過ごせるよう努力していきます。一生懸命頑張りますので宜しくお願い致します。

(4月1日入社)



さか い あき こ
堺井 瑛子
所属 はぐ・らいぶ

4月からHUG・LIVEで勤務することとなりました。わからないことだらけですが、ひとつずつ学んで頑張りたいと思いますので宜しくお願い致します。

(4月1日入社)



お がわ ゆう た
小川 裕太
所属 ゆらくの里

4月からゆらくの里で勤務させていただくこととなりました。利用者様が快適に生活するために何ができるかを考え、一生懸命頑張りたいと思います。よろしくお祈いします。

(4月1日入社)



あさ い りょう た
浅井 竜太
所属 ゆらくの里
(アシスタント)

4月よりゆらくの里で働かせていただくこととなりました。まだ右も左もわからない新米ですが、一生懸命頑張っていきたいです。

(4月1日入社)



ひ おか な な
樋岡 奈々
所属 ゆらくの里 日中・SS担当
(アシスタント)

昨年度まで児童課でアルバイトをさせていただいて、今年度よりゆらくの里、日中一時支援とショートステイ(コテージ)のアシスタントとして勤務することになりました。わからないことがいっぱいありますが、頑張っていこうと思います。

(4月1日入社)



こ ばやし ま き こ
小林 万希子
所属 我楽モンステラカフェ
(アシスタント)

4月からカフェで勤務させて頂くことになりました小林です。ただ今勉強中でまだまだ力不足ですが、お客様満足度100%を目指してスタッフの皆さんと力を合わせ頑張ります。よろしくお祈いします。

(3月4日入社)



かの こ けい じ
鹿子 恵司
所属 ゆらくの里放課後等
デイサービスセンター
(アシスタント)

4月より働かせていただくことになりました。日々笑顔で取り組み頑張りますので、よろしくお祈いします。

(4月13日入社)

初心を忘れずがんばります

どうぞよろしく

お願いいたします



日本財団助成事業完了のお知らせ



このたび日本財団から平成 26 年度助成金の交付を受け、下記の事業を完了いたしました。
ここに完了のご報告を申し上げますと共に、日本財団をはじめ、ご協力を賜りました関係者の皆様に謹んで感謝の意を表します。



記

一. 事業名	ヘルパー車の整備
一. 事業内容	ホンダ N-WGN
一. 事業費総額	563,000円
一. 助成金額	450,000円
一. 施設名称	そ〜る123
一. 施設所在場所	奈良県香芝市穴虫1261-1
一. 完了年月日	平成26年3月26日

《賛助会員ありがとうございました》

多くの方よりご寄附いただきありがとうございました。皆様方からの寄付を施設整備等、有効に活用させていただきます、ご利用者のために使用させていただきます。

《ゆらくの里》

中筋廣次、谷口融正、増尾明広

《地域事業》

藤井宏美

《業者ほか》

インテリア森本、阪本石油、今井庄二、(株)タクサン、(株)ステップワン、Ryo設計室 榎谷良三

(順不同、敬称略)

《賛助会員募集》

引き続き賛助会員を募集いたします。同封の振込用紙にて会費のお振込を是非お願い申し上げます。寄付金控除を受けるための領収証をご希望の方は「通信欄」にてご連絡ください。

《編集後記》

桜の季節もいつしか過ぎ、葉桜の季節となりました。4月は新たな「出会い」の季節です。当法人でも新たな職員を加え、気持ちを新たに新年度のスタートを切りました。昨年度以上に充実した一年となります様、皆様のご協力をお願い致します。

発行： 社会福祉法人 以和貴会
住所： 〒639-0261
奈良県香芝市尼寺616番地
編集責任者： 理事長 下村 卓司
Mail： office@yuraku.or.jp
発行： 平成27年4月